
悪魔のような愛娘

煉獄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔のような愛娘

【Nコード】

N7894A

【作者名】

煉獄

【あらすじ】

見た目可愛く、口が悪い…。我が家の娘は天使の姿をした悪魔だった…。これは彼女を取り巻く人の苦労話です。

「悪魔のような愛娘」

「さてと……今夜は何にしようかな？」

私は買い物籠を持つと、食品コーナーへ向かう。

「ねえ、お母さん！」

「ん？」

娘に袖を引っ張られ、私は彼女の顔を見た。

「ねーねー、これ買ってえ」

私は娘が持つ物を見て溜め息をつく。それは、明らかにオマケがメインで売られている、無駄に高いだけの「お菓子」だった。

「……あのね、美弥。こういう物は高すぎてうちじゃ買えないの。さ、戻してらっしゃい」

私がそう言うと、娘は一瞬ムツとしたような表情になって、すぐに目に涙を溜める。

……いつもの泣き落とし作戦ね。以前はよく私が折れて色々を買わされてたけど、今はもう騙されない。レジに並んでいる時、背後でほくそえみ『ちよろいもんよ』と、呟く美弥の姿を見てしまったからだ。あれ以来、二度と甘やかすまいと私は心に決めた。

「泣いても駄目。さっさと戻してきなさい、じゃないと置いて行くよ！」

娘は泣き止み、怨念の籠もった目で私を見つめ、お菓子を棚に戻す。

……ふつ、勝った。

「……フン、ケチな婆が。この頑固さ故に白髪が生えたのね」

こ、こいつは……！

私は美弥が言った一言に思わず立ち止まる。

確かに一度だけ鏡台の前で白髪の事をいったけど、あの時美弥は居なかったはず……。

でも襖に十センチ位の隙間があった気が……。

……いつからこんなに口の悪い子供になったのかしら？

「……今、何て言ったのかなぁ？ 美弥ちゃん」

怒りを込めた目で、でも出来る限り笑顔を浮かべて娘を見る。

彼女に悪びれた様子は無い。

「何にも言つてない。ねえ、買つてよ！ 買ってくれるまでここ動かない！」

ついに大の字になった娘はだだをこね始めた。

「そうして居たいなら、ずっとここに居なさい。お母さんは先に行くからね」

私が立ち去ろうとすると、娘はついに泣き出した。

……ふん、勝手にしなさい。

「うわーん！ うちが貧乏だからお菓子も買えないんだ！ きつと私が寝てる間に借金取りが来て暴れてるんだ！ ……それでお金に困って怪しい仕事にまで手を……むぐっ！」

とんでもない発言を始めた美弥の口を塞ぎ、脇に抱えるとレジへ向かつて全力疾走した。

周囲からの哀れみの視線が全身に突き刺さる中レジへと駆け込む。

……もう顔から火が出そうだった。こここのスーパーには恥ずかしくてしばらくこられない。

早く会計を済まして家に帰りたい……。

「……！」

買い物籠をよく見ると、ちゃっかりさっきのお菓子が入っていた。かといつてもう戻しに行くわけにはいかない……。そんな事したら娘の言葉を肯定してしまう事に……)

仕方なく代金を支払いを済ませると背後から小さな声が聞こえて来た。

「……ちよろいもんよ」

こ、このガキは……！

（後書き）

家庭科の時間にノートに書いたものを見やすく直した物です（笑）
一人称初挑戦なのでおかしな所もあると思いますが、その辺は大目
に見てください（汗）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7894a/>

悪魔のような愛娘

2011年1月1日00時08分発行